

(別紙5)

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		まんまる放課後等デイサービス		公表日		令和8年 3月14日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		9	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9		今後も利用者様の安全が確保できるように職員配置をしていく。 職員、児童数を事前に把握し、調整を行なっている。	人員配置上は足りているが、時間帯によってもう少し多いと良い。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		8	1	学習スペースと活動室の間のドアに手を挟まないようにカバーをしている。 構造上、バリアフリーは難しいが段差等に気をつけて支援を行っている。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9		活動によって部屋を分けて活動を行っている。 子どもが集中しやすく、広々とした空間を作っている。	雨の日はスペースが限られているため、体を動かす活動が難しいことがある。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		9		静かに過ごしたいとき、クールダウンのときの部屋を設定している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		8		毎日、ミーティングを行い業務改善のために意見交換をしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		8		全体会議を行い、共有・改善を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		9		パートやアルバイトの方でも発言しやすい環境を作っている。また、話し合いの場がある。	把握はしているが、改善まで至っていないケースがある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	4	今後、第三者を設置し、業務改善に繋げていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		9		定期的に他事業所見学など、研修を実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		9		HPで支援プログラムの公表を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		9		保護者や利用者様、職員のアセスメントシートを基に計画を立てている。 定期的なアセスメントの他に、支援後にフィードバックを行い常にニーズを確認、職員間で共有している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		9		計画会議などを開催して、職員からの聞き取りや意見交換をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		9		個別ファイル・データで個別支援計画を管理・共有をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		8	1	5領域に対応したアセスメントシートで状況確認・課題設定をしている。 支援ミーティングや個別支援計画会議などで、特性や行動の情報共有を行いながら進めている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		9		5領域に対応したアセスメントシートで状況確認・課題設定をしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		9		プログラム会議を開催し、全員で活動案を出しながら計画を立てている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		9		季節ごとのイベントや活動を取り入れながら進めている。	

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		集団での活動がメインではあるが、難しい場合にはサポートしたり、個別での取り組みが行われている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		毎日、支援ミーティングで児童の様子や活動を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		支援終了後や翌日の朝礼・支援ミーティングで共有をしている。	全員参加での共有が難しいこともある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		システムに活動内容を記録するだけでなく、共有欄の活用をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		定期的なモニタリング・アセスメントを行い、個別支援計画の更新を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	9		特性に合わせて、組み合わせながら支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		自分のやりたいことを職員に伝えたり、プレゼンすることで意思表示・自己決定能力を高めている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1	管理者・児童発達支援管理責任者を中心にサービス担当者会議に出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	状況に応じて関係機関との連携を図っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		年間行事予定や下校時刻表、引き渡しの際などに情報共有・連絡調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	必要に応じて、連携を図っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	就労継続支援の見学・同行・紹介、活動内容の共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2	児童や他事業所との連携会議や交流会を実施し、情報交換をしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	イベントに参加したり、企画したイベントへの参加を呼び掛けている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		管理者を中心に協議会への参加をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		連絡帳や対面で保護者様と情報共有を行っている。 メッセージ、お電話などで相談等を随時受けている。 日々気になったことや、様子など保護者様に伝えまた保護者様からも家庭での困りごとなども聞き、細かい課題	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		保護者向けの座談会、親子イベントを設けている。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に、丁寧に重要事項説明や契約書説明を行い、その後も質問があれば都度答えている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		アセスメントシート・モニタリング、支援の様子・課題をもとにお子様合った個別支援計画を作成している。	
	38	「個別支援計画書」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		支援内容を説明し、同意のサインをいただくようになっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		必要に応じて、保護者面談や相談を行っている。	
	40	保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9		年間計画で、家族で参加できる企画や保護者の交流できるようなイベントを実施している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		今後も何かあった際は、迅速に適切な対応が行われていく。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		インスタグラムで活動の様子を発信したり、保護者会を開催している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	1	書類を手渡しする時、個別ファイルで振り分けており間違いがないようになっている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		伝わりやすい方法などを日々会議で相談し、考えている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1	毎年、夏まつりイベントなどで、地域の方へお知らせし参加してもらっている。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		研修を通して職員は周知しており、保護者には施設内の掲示で周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		状況を想定した訓練を定期的に行っており、消防士立ち会いは年2回行なっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		契約維持に持病や服薬・アレルギー等を確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		HUGで確認ができ、アレルギーに対して全体周知・対応を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		定期的に研修・訓練を行い、有事に対して備えをしている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		事業所内の掲示・閲覧ファイルにて周知を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		発生時にはすぐノートに記入・口頭での全体周知・再発防止策を検討している。また、ヒヤリハット会議の時に再度共有を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		定期的に研修を行い、虐待防止への知識・対応を高めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		身体拘束を行う事例なし。 必要に応じて、保護者様と話し合い（説明）をしたうえで検討していきたい。		

(別紙3)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まんまる放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日	～	2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54名	(回答者数) 43名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日	～	2026年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お仕事やクッキングなど、経験を増やせる。	こども主体で活動を行っていく。	こども・保護者様からやってほしいことを聞きながら、活動に活かしていく。
2	部屋(スペース)が多い。	個々の特性に合わせて、スペースを活用している。	集団と個別の支援を組み合わせて、成長を促していく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の人員が手薄になる時間帯がある。	配置基準は満たされているが、活動の内容によって必要以上に補助が欲しい時がある。	活動の内容に合わせて、多く人員を配置していく。
2	部屋数が多く、死角になる場所がある。	お客様の特性に合わせて、いろいろな場所を活用している。 その分、職員の配置も必要になる。	ケガや事故に繋がらないように、各部屋に職員を配置するなど、工夫をしていく。
3			